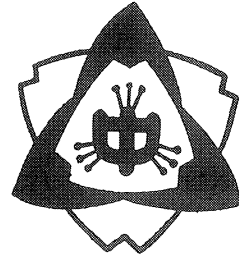
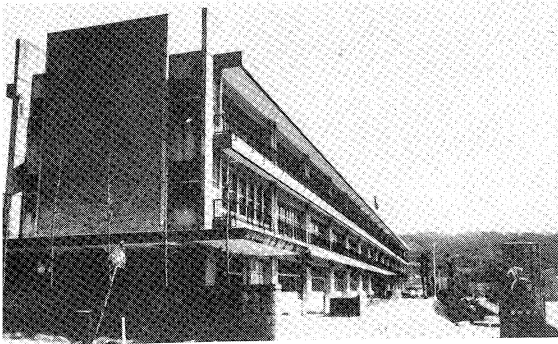


わが校を語る



立 町 埜 中 学 校



通用門より校舎をのぞむ



スクールバス乗車風景

本校は、昭和四十一年より四十七年にかけて町内五つの中学校を統合し、鉄筋三階建ての白亜の殿堂を建設、町のシンボルとなっている。

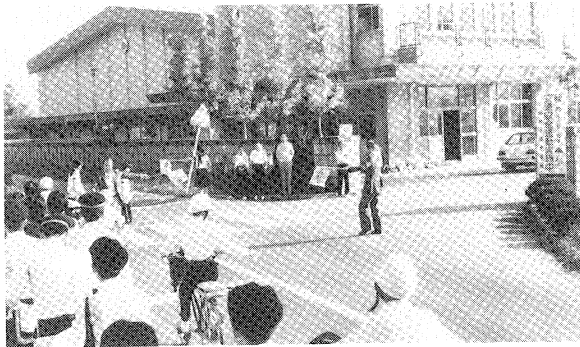
生徒は町内六つの小学校より入学し通学範囲も広域にまたがり、約三分の一の生徒が五台のスクールバスで通学している。昭和五十一年度には、学校教育目標の改訂にとりくみ、①心もからだも健康な生徒 ②すすんで学び工夫して生活する生徒 ③きまりと責任

標をかかげ、その具現化に努めている。

特に自主的自発的な活動を助長し、

クラブ活動のいっそうの充実を図った。科学クラブでは貝化石・コンニャク・カナツボ石、そして現在は生活排水の調査と、計画的に継続研究がなされている。コンニャクの研究では、日本学生科学賞中央審査一等賞を受賞。

カナツボ石の研究では、日本学生科学賞中央審査全日本科学教育振興委員会賞を受賞。五十三年十月には、生活排水の調査で五度目の日本学生科学賞県



交通道徳の高揚

審査最優秀賞を受賞している。

昭和五十三年四月、日本学校安全会より「学校安全研究校」の指定を受け「生徒活動をおとした安全指導の進め方」をテーマに、二年次の研究計画・研究組織に基づき、学級指導等で習得した安全意識を日常生活の中に、どのようにとり入れ実践していくべきか、を課題とし、生徒活動を中心として、その推進にとりくんでいる。



科学クラブによる生活排水調査